

フロン類回収業者の皆さまへのお願い

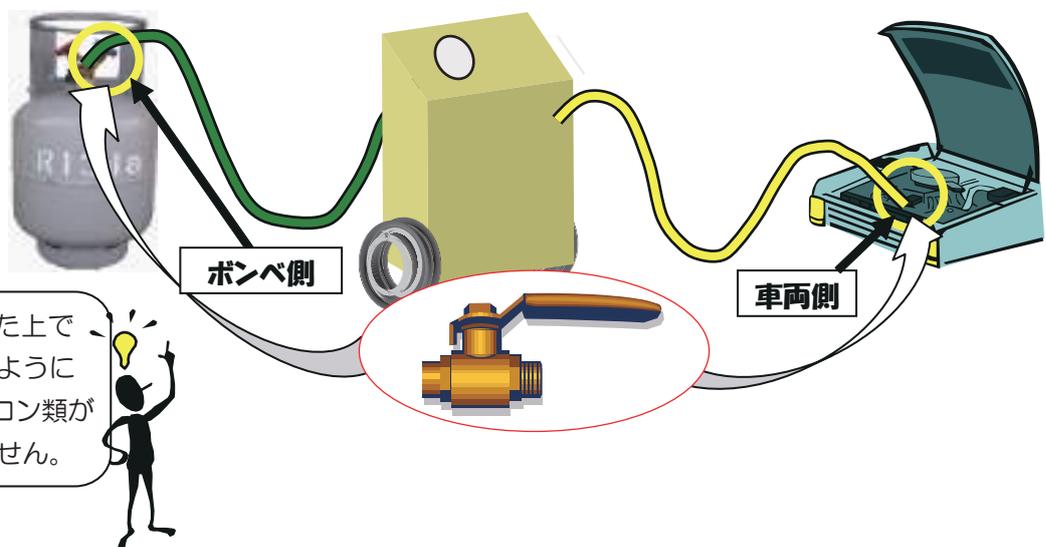
推奨するフロン類回収方法・回収機器等の管理方法を 再度ご確認ください。

- エアコン内に残存しているフロン類は全て回収してください。
- 車両やボンベから接続ホースを外す際には、フロン類が漏れないよう注意してください。
- フロン類引取量が基準引取量を下回った場合は、回収料金が減額されます。

気温が低くなる時期を迎え、日頃実施されている方法でフロン類の回収を行っても十分に回収しきれないケースが発生します。指定引取場所へ引き渡されたフロン類が基準引取量を下回る場合は回収量に比例して回収料金が減額されますので、下記の内容を参考に適切な回収作業の実施をお願いいたします。

漏れ防止バルブの使用

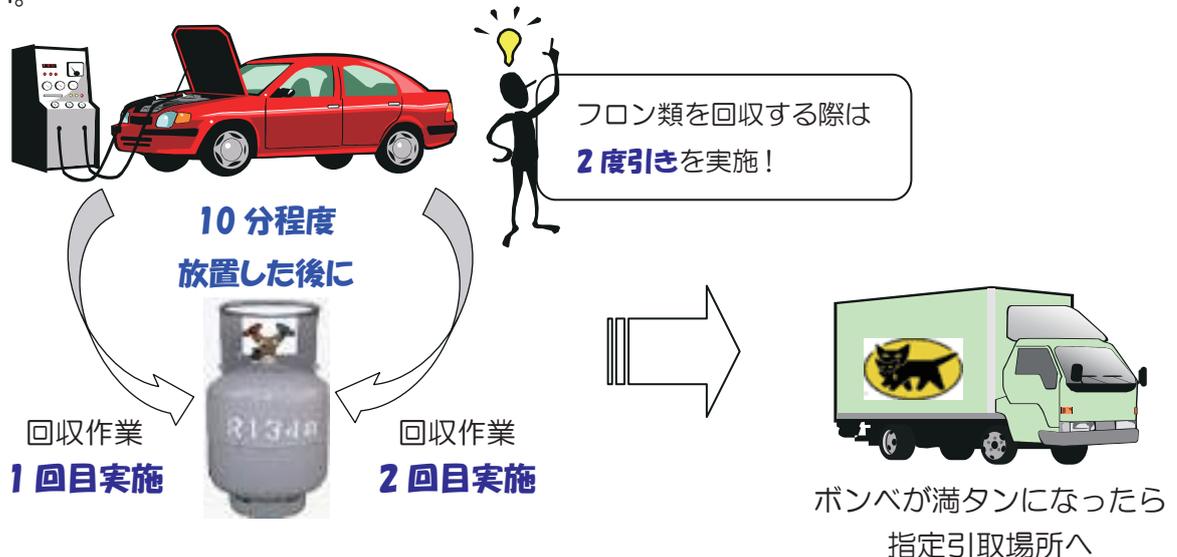
フロン類を回収した後、車両やボンベから接続ホースを外す際にそのまま外すと回収したフロン類が漏れる可能性があります。ボンベ接続側および車両接続側に漏れを防止するストップバルブを取り付けることをお勧めします。



※ストップバルブとは、レバー等を回転させる等でホース等からガスが漏れるのを防ぐ機能があるものをいいます。

2度引きの実施

エアコン内にオイルが残っている場合は、オイルに溶け込んだフロン類が気化しきれないまま残存しているため、最初に回収した後10分程度放置しオイルから気化した後の2度引きを実施してください。

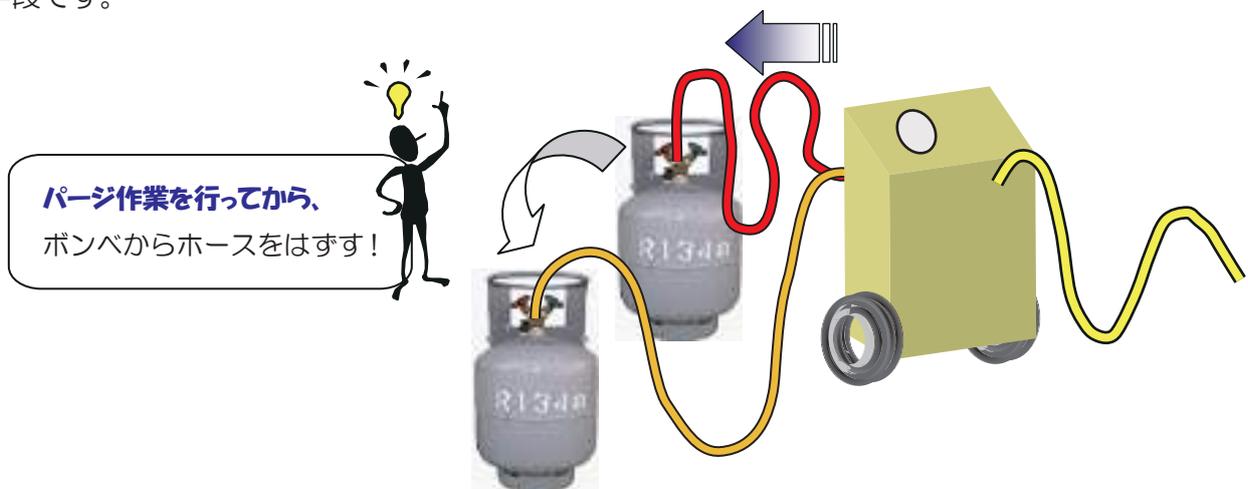


※冬季の気温が低い時期や1BOX車等でなかなか回収しにくい場合には、事前に数分間エアコンをONにした状態で暖機運転を行うことで回収しやすくなりますのでお試しください。

パーシ（リフレッシュ）作業の実施

ボンベを交換する際は、回収機の内部に溜まったフロン類を全てボンベに移す（通称：パーシ作業）ことで、回収機からの漏れやCFC/HFCの混入を防止することができます。

1日の作業が終わった後にパーシを行っておくことも、夜間の回収機からの漏れを防止する有効な手段です。



※パーシ機能がない回収機を使用されている場合は、ストップバルブ等を使用してフロン類が大気中に放出されないように管理してください。